

向日市立図書館・向日市文化資料館 開館35周年記念特別展

むこうまち

昭和モダンと向日町

令和元年 (2019) 11月2日(土)～12月1日(日)

- 開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
- 休館日 月曜日 ※ただし11月4日は開館、11月5日は休館
- 会場 向日市立図書館2階研修室・向日市文化資料館ラウンジ 入館無料



特別展記念講演会

「民藝建築としての向日庵」

- 講師 石川祐一氏 (京都市文化財保護課)
 - 日時 令和元年11月10日(日) 午後2時～4時(開場は午後1時30分)
 - 会場 向日市文化資料館2階研修室
 - 定員 80人(要申込)参加無料
 - 申込 文化資料館へ直接ご来館、又は電話、FAXにてお申し込みください。
- ※手話通訳をご希望の方は、10月31日(木)までにお申し込みください。

小さいピアノ♪再生記念ミニコンサート

約80年前に西向日住宅地へやってきた小さなアップライトピアノをこのたび修理しました。その完成を披露する手作りコンサートです。

- 日時 令和元年12月1日(日) 午後2時～4時(開場は午後1時30分)
- 会場 向日市文化資料館 特別展1階会場 (歴史体験交流センター)
- 運営 小さいピアノ♪再生ワークショップメンバー
- 協力 一般社団法人日本ピアノ調律師協会 関西支部
- 定員 60人(要申込)参加無料
- 申込 受付は11月3日(日)から、文化資料館へ直接ご来館、又は電話、FAXにてお申し込みください。

☆ミニコンサート当日は特別展1階会場の展示見学は制限されます。ご了承ください。



向日市立図書館

〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1
電話 075-931-1181
<http://www.library.muko.kyoto.jp/>

向日市文化資料館

〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1
電話 075-931-1182 FAX 075-931-1121
<http://www.city.muko.kyoto.jp/kurashi/bunka/>



上段左 稲垣稔次郎 浅葱地椿文着尺 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
上段右 河合卯之助 向日窯椿文皿 (渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
中段左 勅使河原蒼風書「椿」(渡邊武コレクション) 向日市立図書館蔵
中段右 寿岳邸「向日庵」外観
下段左 菅部新太郎自伝『桜男行状』、水上勉『櫻守』 向日市文化資料館蔵
下段右 向日町劇場 (向日町町並み復元模型より) 向日市文化資料館

向日町に暮らした 昭和の文化人たち

昭和初年、新京阪線（現在の阪急京都線）の開通とともに向日町に現れた新しい生活スタイル。
高い交通便利性や明るい風土、陶芸に適した土壌などを背景に、多くの学者や芸術家が住居を構えました。日常の美に満ちた生活文化と人々の交流を紹介します。

河合卯之助

(1889~1969)

河合卯之助は京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校を卒業後、しばらくは陶工であった父に学び、家業を手伝っていましたが、一方で版画集や木彫、デザイン、西陣織の図案も多く手がけていました。

朝鮮の古窯跡を訪ねて感銘を受け、色絵の技法を習得したのち、向日町に向日窯を開き、独自の作陶活動に入りました。

陶芸以外にも多彩な才能を發揮した河合の周囲には吉川英治や富本憲吉など多くの文人・工芸家が集い、向日町の河合邸はさながら文化サロンのようであったといえます。



上 向日窯にて『窯辺陶話』より
下左 赤絵印句壺 下右 奥桐桐象嵌扁壺



寿岳文章・しづ

(1900~1992) (1901~1981)

寿岳文章は、英文学者として高名で、ウィリアム・ブレイクの詩集やダンテ『神曲』の名訳で知られます。和紙研究・書誌研究においても第一人者でした。

昭和初期には親交のあった柳宗悦が提唱した民藝運動に参加するなど、幅広い分野で活躍する文化人でした。妻のしづも小説家・随筆家・翻訳家として執筆活動を行いました。寿岳が家族とともに向日町に建てた自邸「向日居（向日庵）」に移り住んだのは昭和8年（1933）のことです。しづとともに

手ずから制作した本（向日庵本）は、その装幀の芸術性も高く評価されています。また、寿岳夫妻が戦時中に行った全国の和紙研究は、日本におけるフィールドワークの嚆矢とされています。



上 寿岳文章、しづ夫妻
下 寿岳夫妻が全国の紙漉場を訪ね歩いて調査した記録『紙漉村旅日記（明治書房版）』



渡邊武

(1913~2004)

薬学博士の渡邊武は、東京帝国大学医学部で薬学を修めた後、(株)武田薬品研究所に勤務、その在職中から正倉院薬物・香薬調査を委嘱され、退職後には、日中医薬研究会会長、日本漢方交流会顧問などを歴任し、伝統医薬学の発展および薬学を通じた日中の交流、友好に力を尽くしました。また、椿の研究に造詣が深く、日本各地の椿の原生地、巨椿、銘椿を訪ねています。約五十年かけて収集した椿のコレクションは、椿をモチーフにした書画・陶磁器・染織などの美術品のほか、椿材で作られた民芸品・茶道具・玩具類、椿に関する書籍や葉書などあらゆるものにおよびます。

平成6年（1994）に椿に関する美術工芸品のうち約千五百点を向日市に寄贈、向日市立図書館の渡邊武コレクションとなっております。



上 棟方志功椿絵書簡 下 渡邊武



向日町劇場

現在の向日市鶏冠井町に戦前まであった芝居小屋・映画館「向日町劇場」。左は新派劇興行のチラシ（向日市文化資料館所蔵）、右は映画興行のチラシ（国立歴史民俗博物館所蔵）です。開業の時期は定かではありませんが、昭和初期頃には、映画や奇術などの興行が盛んに催されていたようです。11月24日（日）の日曜談話会では、これまで不明なことが多かった向日町劇場について、最新の調査成果を報告します。

笹部新太郎

(1887~1978)



笹部新太郎（西宮市笹部さくらコレクション）白鹿記念酒造博物館寄託



現在のむこうまち「桜の園」（向日市・朝枝民二氏撮影）

大阪・堂島の大地主の家に生まれた笹部新太郎は、東京帝国大学在学中から桜の研究を始め、兄から譲り受けた宝塚市の土地で演習林を造園しました。昭和10年には向日町に土地を購入し、「桜苗圃」を造りました（昭和36年、名神高速道路建設に伴う盛り土採取地として買収され消滅）。日本古来の桜の保存・改良に尽力し、「桜男」「桜博士」と呼ばれた笹部は、水上勉の小説『櫻守』のモデルになりました。通り抜けで有名な大阪造幣局の桜も笹部が管理・育成に関わったものです。

